

タキイの

タネのタキイ

根深ネギ栽培ポイント

チェーンポット® CP303

高品質で均一な苗作り！移植作業の省力化に！



播種～定植までの作業は
日甜の播種板・チェーンポット
ひっぱりくんで効率化！

小型・軽量で使いやすい！ 自分のペースで作業ができる
白ネギ栽培向け/チェーンポット、簡易移植器 **ひっぱりくん®**

「溝切り」「植付け」「土寄せ」「鎮圧」の移植作業が同時に行えます



白ネギ栽培向け 土詰・播種5点セット

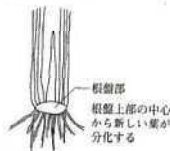


◆栽培管理のポイント

栽培管理チェックポイント

☑根深ネギの基本特性

生育適温15℃～20℃ ★30℃以上の高温が苦手です生育が止まる
「根盤部」から発根し、一度根が傷むと回復に時間がかかる
根の酸素要求量が高く、過湿環境は特に苦手
肥料成分はリン酸を好む



☑育苗のワンポイント



本葉2.5枚目まで約50日～60日間の長期間育苗
特性に合わせた水分管理・肥培管理は難しい
苗の出来は収量に直結し、**培土選びは重要ポイント**
リン酸が高いと根量が増え、葉が硬くなりやすい
育苗期の**亜リン酸肥料の施用は推奨**

★タネバエの被害に悩んでませんか？

未熟たい肥が育苗床のそばにあったり、
畑へ未熟な状態で投入してしまい、タネバエが
湧き、ネギへの被害が発生するケースが増加傾向



おすすめ資材



ネギブレンドW培土
チェーンポット育苗用
長期肥効型で安心設計
水管理がしやすい培地

腐植チャーージ

たい肥2.5t分の
腐植酸がわずかに4袋で
補える土壌改良剤
良いたい肥が入手でき
ない時におすすめ



ホスペジ10

ネギ農家の必須アイテム
亜リン酸液肥
グリシンベタイン新配合
異常気象に負けない！

栽培ポイント

重要！根深ネギの圃場作り



土寄せは根深ネギにとってはダメージでしかない
いかに根が回復しやすい圃場を作るかがポイント
①排水性の改善 = 明渠・酸素剤の活用など
②有用微生物 = 微生物が多いほど根は伸びやすい

☑酸素剤と根深ネギ栽培は相性抜群！



(事例説明)
定植1週間後にゲリラ豪雨被害
2日間浸水したものの、畑半分に
施用した区は影響なく順調に生育

元々水はけが良い圃場では効果は
発揮されにくく、悪い箇所での
施用が経済的

酸素は微生物の活性化にも効果的
(例) たい肥作りの切替し

☑夏越しのワンポイント

ネギにとっては過酷な時期(多雨、高温、土寄せ、病害)

- ①ネギのストレスを少しでも軽減させる心遣い
(例)1畝飛ばしの土寄せで、一度に両サイドからしない
- ②窒素の過剰施用を抑え、**亜リン酸液肥の葉面散布**を実施
葉が柔らかくなり、窒素過剰になると軟腐、べと病の引き金になる
生育が鈍くなる夏場は亜リン酸を2週間おきに施用し、葉を硬くし、
根を回復させる事が得策⇒秋口からの肥料の食いつきが抜群に良い
同じく、**ケイ酸液肥も同様の効果**が期待できる
- ③台風や大雨後のダメージを受けた際は、窒素入りの葉面散布が必要
ダメージ後は、速やかに予防剤や殺菌剤を散布し、窒素が多い
葉面散布のより早期回復させる



☑病害虫予防



- <健全なネギ栽培>
・適切な肥培管理、根張り強化で免疫力向上
<早期防除>
・**病害菌の発生パターンを把握**し、先手の防除

病気	環境	対策
軟腐病	高温・多湿・窒素過多	土寄せ量・土寄せ時期 傷口消毒・排水対策
萎凋病	高温・乾燥・酸性土壌	PH調整(6.5)・根張
べと病	低温・多湿・窒素過多	梅雨秋雨時の予防散布 適切な肥培管理
さび病	低温・多湿・窒素過多 肥料切れ	早期予防・潜伏期間を 把握し治療・肥培管理

- <発症リスクになる環境を作らない>
・雑草放置による害虫発生



おすすめ資材



バイオダルマ
菌体たい肥の力で
有用微生物が増え
土がよみがえる！



腐植チャージ
バイオダルマとの
相性も良く、
有用微生物の住処に

オキシパワー5
5か月間酸素を発生
畑つくりの際に
投入するタイプ



オキシダッシュ1
1か月タイプ
短期間に多量に
酸素発生させる
大雨前の通路施用や
浸水被害後の回復剤に



ホスベジ10
夏場に2週間に1度
1000~2000倍希釈で
葉面散布をすると
効果抜群！！

マグマSI

高濃度ケイ酸液肥
特殊製法で良く効く
2000倍希釈の
葉面散布がおすすめ



ヨーゲンアクセル
効果がはっきり
出る葉面散布剤
30-10-10
50年以上の実績

有光静電ノズル

散布剤を強制的に
静電させ、ネギへ
薬剤がしっかり付着
農薬散布量の軽減も
期待できる省エネ機材



ガードマン
畝間に合わせ、
株元まで除草剤
散布ができる
便利グッズ！